



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 村落と都市の研究Ⅴ                                                                         |
| Author(s)        | 鈴木, 栄太郎                                                                           |
| Description      | 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）                                                  |
| Issue Date       | 1966                                                                              |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/77301">https://hdl.handle.net/2115/77301</a> |
| Type             | manuscript                                                                        |
| File Information | K020_016.pdf                                                                      |





打猪之都市之研究

[illegible]

NA2

FINE NOTE



- 一、都市化する前の大区域
- 一、都市の拡大と都市圏化
- 一、都市生活の近代化
- 一、都市の形成と都市圏化
- 一、都市の近代化
- 一、都市の近代化
- 一、都市の近代化
- 一、都市の近代化
- 一、都市の近代化
- 一、都市の近代化

現代都市の形成は、都市の近代化と都市圏化の過程を経て行われた。都市の近代化は、都市の生活環境の近代化、都市の社会制度の近代化、都市の文化の近代化などによって行われた。都市圏化は、都市の周辺地域との関係の近代化によって行われた。都市の近代化と都市圏化は、都市の発展と都市の生活環境の改善に貢献した。都市の近代化は、都市の生活環境の近代化、都市の社会制度の近代化、都市の文化の近代化などによって行われた。都市圏化は、都市の周辺地域との関係の近代化によって行われた。都市の近代化と都市圏化は、都市の発展と都市の生活環境の改善に貢献した。



官子職を以て成るは事あるが如し  
なり。身方と有りしを其の如し  
は其の如し身方の如しなり。

都市経済学の大区域

都市経済学は二つの部分に分けられる  
その一は都市の内部の経済構造と  
機能を取り扱うもので、その二は都市  
の外部即ち国民経済における構造  
と機能を取り扱うものである。



調  
雪  
工  
月

血緣關係

五  
九  
同  
仔

一友人

笑人

古  
子  
始  
の  
フ  
文  
同  
の  
調  
文  
の  
一  
四  
の

下  
群  
集

一二夜を区  
又

代售

28 1/2

一、樓  
印

一、殺濟

都市生活と一代

一、都市の幼年少年の生活

一、都市の青年の生活

一、都市の老人の生活



前者のそれとを区別し

一、その間につき、是等は移動性の調査  
に轉入するものあり

七、その又その職業、その地位の調査

一、その間、その十年、二十年に及び

交通の輕重、職業、地位の異同、協力

交通の輕重、職業、地位の異同、協力

婚姻の關係

一、家族の調査

一、家族の分析、混入、移動、移動、

世代と職業の

一、その間、その十年、二十年に及び



一、印度之行政区域、邦之  
仲了

（一）政治的・経済的

一 政治的・経済的

一 経済的

一 政治的・経済的

一 政治的

一 政治的

一 政治的

一 政治的・経済的

一 政治的・経済的

一 政治的・経済的

一 政治的・経済的

組織



葬式の時は援助に来るのは  
 地域人か  
 地域人か



都市の近代化

- 一、地区集団より職域集団へ
- 一、村落都市より職場都市へ
- 一、村より町へ
- 一、内地の旧都市と北海道の都市
- 一、昔の都市と現代の都市

（昭和）

都市

（職域に於て）

第一

田舎一大工業都市

（甘や牧）

第二

同種ニ大工業都市

（美濃）

第三

田舎種ニ大工業都市

第四

同種ニ大工業都市

（岩田）

第五

田舎種ニ大工業都市

近代化の形勢によつて旧都市の分派

第一

百人以上の工業都市

第二

全人口の1/3以上を占める工業都市

第三

全人口の半數以上を占める工業都市



都市の概念は同好する項

- 一、都市の密着の規模、一人に密着、一、戦域と見
- 一、行政の規模、一、戦域と見
- 一、都市と工業の概念は同一要素にも決定される
- 一、都市と工業の概念は同一要素にも決定される

# 戦域と住居の同好

戦域密集地としての都市  
住居密集地としての都市、あるか

都市は居住するよう構成される。通勤を  
入水不

小規模の労働人は小規模の市民

# 都市の統一性

- 一、都市の空間的統一により独立
- 一、行政の規模
- 一、地価、水田の割合

設地と都市の圈内  
振興的

# 戦域の位置

住居の位置と戦域の位置、通勤圏  
都市の境界線は空間的、地上に決定し  
戦域。都市は空間的、地上に決定し

- 一、都市圏の存在
- 一、都市圏と戦域圏の交替
- 一、世帯の後継化



都市の発展

第一節 都市の発展

第二節 都市の発展

第三節 都市の発展

第四節 都市の発展

第五節 都市の発展

第六節 都市の発展

第七節 都市の発展

第八節 都市の発展

第九節 都市の発展

第十節 都市の発展

第十一節 都市の発展

第十二節 都市の発展



大都會の周辺に中都市、その周辺に小

都市、その周辺に市街地、その周辺に農

村がある。大都市より近い中央部に都市が

あり、その周辺の農村の周辺、その地帯や

丘陵を地帯が占め、同じく丘陵、果樹

の多い丘陵地帯、一定の傾向を

示す。しかし、その果樹は必ずしも

大都市の周辺にのみ見られる。

大都市は中都市を支配し、中都市は

小都市を支配し、小都市は農村を街

地を市街地を農村を支配する。この傾向

は、必ずしも、必ずしも大都市の

周辺に限られる。

[illegible]



都市と農村

(都市の範域論)

住居論 (職、業と住居と)  
何れが主か

住居とは寢るための構へである。

家は寢る場所、寢る家、家の

中へ。動物の巢も眠るところ、

ぬくものである。

安眠の為に風雪を遮ぎ、冬は

暖かく夏は涼しく、動物や人間

が近づき、安眠妨害するもの

なきを為に構築した人間の巢

が住居である。

睡眠中は人は体力を回復し、体力の

回復が充分、安全に生命や財産



や就余出雲狐鼠の賦

を守り病室を害より保護する

ためには容易なりと謂へるは亦である。

人は一日の三分の一は眠る。其力になる

のであゝかゝ此睡眠中の安全保障

の設備は人の関するところである。

家を宿る場所以外に用ひ始め

のは人同の非常な進歩である。

食肉獣や野鳥の巣を考へて見よ。

鳥の巣はあつたは収容は充分であつた。

鳥の巣は乳母の哺乳の場所として用ひ

てゐる。乳母は乳を吐き出すのは乳のつら

い病弱をのりてあつた。食肉の場

所は金と野鳥のふいふ同のふいふ



所となり、休息の場所となりしは第一目的  
の目的のみである。客を招くは、  
外苑を顧客とするは、次の次  
の目的のみである。事業を性交の場面に  
用ひ始めたのも、事業本来の使命では  
なかつた。

今日では人は事業を衣服の貯蓄、調製、食物  
の保管、調理、食事を伴ひ、寝定<sup>の外に</sup>性交の場  
所として、用ひ、単に仰の場所として、相関  
の場所として用ゐる。妻子老弱者の保管  
庇護の場所として用ゐる。生活の一切は  
この事業の内である。他は、生活